

令和7年度1学期終業式 校長式辞

おはようございます。今日で1学期が終了します。年度当初から、「脳に汗をかいて」、学習や探究活動に取り組んでほしい、「与論にルーツがあることに誇りを持って」学校行事やボランティアなどの活動に取り組んでほしいと伝えていますが、進捗状況はいかがですか。来週からは課外があるとはいえ夏季休業です。普段とは違った時間の使い方ができると思います。更に「脳に汗をかき」「ルーツに誇りを持てる」よう何事にも積極的にチャレンジしてほしいと思います。

さて、今日は次の言葉から話を進めます。英語です。

"You are what you eat."

これ、どんな意味だと思いますか。直訳すれば、「あなたはあなたが食べるものである。」

1年生は先日、家庭科の時間に講師の池田理恵さんからミネラルの重要性をレクチャーされましたね。まさにあれと関連しています。「あなたは自分が食べるものでできている」ということ。つまり、自分の食するものには気を遣いなさいよ、いいものを食べなさいよ、しっかり食べて健康な体を作りなさいよという意味なのですが、私はこの言葉を思うとき、いつも同時に思い出す言葉があるのです。それは、私の今年90歳になった父が十数年前に言った言葉です。

「贅沢さえしなければ、一日三食腹一杯食えるだけでも幸せなんだよ。」

こう言ったのです。別に高級レストランの高級食材を食べる機会はなくとも、地元のスーパーや商店で手に入る食材をバランスよく調理して、一日三回空腹を満たせるだけで幸福なことなんだよということを伝えたかったのだと思います。私の父は、第二次世界大戦の終戦時、10歳でした。戦争の記憶ははっきりと残っています。とにかく食べ物がない少年時代を生き抜いてきましたので、先ほどの言葉は平和な時代しか知らない私の心に深く残っているのです。

食べ物がないことは耐えられないことだということを、アンパンマンの生み

の親、やなせたかしさんも従軍した経験からその著書の中に記しています。一部抜粋します。

ぼくが飢えを実感したのは兵隊として戦争に行った時でした。兵隊は大変なんです。泥の中を這いずり回らなくてははいけませんし、毎日訓練もします。ぼくらは野戦銃砲隊という大砲の部隊で、大砲に一番大きな弾丸を込めて持って歩く。大砲は重いので、大変な重労働です。ヘトヘトになるんですね。

しかし若いから、重労働は一晩寝ればなんともない。それ以外にも辛い訓練があって毎日殴られるけど、それにも耐えられる。

耐えられないのは何かというと、食べるものがないということだったのです。それ以外のことは、けがをしても薬をつけていれば治るし、たいていのことは我慢できるのだけれど、ひもじいということには耐えられません。何でもかんでも食べなくなっちゃう。一番辛いのは食べられない、飢えるということだったのです。

（『わたしが正義について語るなら』やなせたかし）

やなせさんはこのように語っています。食料が尽きる中、最前線で戦い続ける壮絶な日々を過ごし、やなせさんは後に正義について考えます。自分にとっての正義とは、目の前の飢える人を救うこと。自分を犠牲にしてでも、自分を食べさせることによってでも、飢える人を救う。それが正義だと。アンパンマンはそのようにして生まれたのです。

翻って今、日本のテレビ番組を見てみると、やたらとグルメ番組、食べ歩き番組が多いことに気がつきます。タレントさんが目的のレストランまでひたすら歩いて喉をカラカラにして、おいしいビールと食事を堪能する「ベスコングルメ」や、バナナマンの日村さんが全国各地のお店で、おいしそうにお勧めのメニューを味わう「せっかくグルメ」などは、私も楽しく見ています。「いつかその店で食べてみたいなあ」などと思いながらですね。

そのほかにも、タレントさんが食べた食事の値段を当てるのを競ったり、何分間でどれだけの量を食べられるか大食いを競い合ったり、激辛メニューに耐

えられるかなど、食べ物・食事に関する番組は枚挙に暇がありません。

でも、ちょっと視点を変えて考えてみると、どのチャンネルもこういう番組で溢れかえっているということは、日本が今平和であること、日本が少なくとも今、外国と戦争をしていないことの裏返しだと思うのです。ウクライナとロシア、パレスチナとイスラエルは現在戦争状態です。これらの国々で、のんきなグルメ番組が放映できるとは到底思えませんし、爆撃を受け瓦礫と化した街で泣きながら食糧の配給を待つ子どもたちを見ていると、日本が今戦争をしていないことがどれほど有り難いことなのかを改めて感じるのです。そして、親父の言うとおりの朝昼晩と三食食べられることを当たり前のことなどとは思ってはいけないのだと、自己反省したりするのです。でも、それだけでいいのか。アンパンマンならどうするのか。やなせさんならどう感じるのか。そこまで思いを巡らせて自分の行動を決めたいものだと思いますが、皆さんはどう感じますか。

日本の食糧自給率はカロリーベースで4割程度です。理解しやすいように単純化すると、皆さんの食卓に上がる食材の6割が外国由来ということです。もし日本が食料を輸入している外国と、戦争とまではいかなくても関係が悪化して、「もう日本には食料を輸出しないよ」と言われたら、それだけで私たちの現在の食生活は崩壊するでしょう。主食の米さえも国内でまともにコントロールできていないのです。こうなれば、グルメ番組どころではありません。ましてや、戦争などとなれば、間違いなく日本人は飢えることになるでしょう。

今年は戦後80周年の節目の年です。8月15日の終戦の日に向けて、戦争に関する特別番組も増えると思います。普段、戦争のことなど興味がなかった人も、今年は是非、積極的に見て何かを感じとり、今後の自分の成長につなげてほしいと思います。

皆さんは鹿児島県に特攻基地があったことは知っていますね。有名なのは知覧と鹿屋ですが、もう一つ、私が8年間勤務した加世田高校がある南さつま市の吹上浜に、「万世飛行場」があったことはあまり知られていません。終戦直前のたった4ヶ月間だけ運用された、舗装もされず砂利の滑走路の、突貫工事で作られた特攻基地です。17歳から31歳の隊員がここから出撃し、121人の特攻隊員が戦死し、護衛のパイロットなどを含めると201人が命を落としたそう

です。与論高校生と我々職員を合わせても足りない数の人々が1学期中に失われた計算になります。

この万世飛行場から飛び立った隊員たちが写った有名な写真があるのですが、皆さんは見たことがありますか。子犬を抱っこした1人の隊員を4人の隊員が取り囲んでいるのですが、皆がかわいい子犬に癒やされたのか、何ともいえない穏やかな表情をしているのです。この写真は出撃直前に撮られたと言われていますが、隊員たちがこの時どんな気持ちでいたのだろうと思うと胸が張り裂けそうになります。高校で教師をしている私にとってもっと辛いのは、彼らが皆、17歳・18歳の少年だということです。皆さんと同じ歳の少年たちが、必ず死ぬと分かっている場所に飛び立つのです。今ではとても正常な精神状態を保てる状況ではないと思いますが、それが80年前、実際に日本に事実としてあったことを、私たちはもっと詳しく知る責任があるのではないか。そうすることが戦争で亡くなっていった隊員たちの冥福を祈ることにもなるのではないか。私はそう思うのですが皆さんはどう思いますか。

今年の夏休みは通常の学習や部活動、探究活動に加えて、戦争について読む・見る・考える・感じる・行動する夏休みにしてほしいと思います。これは提出は求めない私からの宿題です。夏休みに鹿児島に行く機会がある人は是非、時間を作って知覧特攻平和会館や万世特攻平和祈念館まで足を伸ばしてみてください。

最後に、冒頭の英語の単語を一部入れ替えたものを皆さんへの応援メッセージとして送りたいと思います。

"You are what you watch."

"You are what you feel."

"You are what you experience."

皆さんがこの言葉を胸に、新しいことに積極的にチャレンジする与論高校生になることを期待します。以上で1学期終業式の式辞とします。